

ピト

Pito 1号

インタビュー

橋 真 (自然栽培農家)

清岡まなみ (ファッションデザイナー)

清岡正明 (ファッションデザイナー)

吉田忠司 (調理学理人)

平松克啓 (建築家)

井壺幸徳 (イタリアンシェフ)

片山美里 (フラワークリエイター)

片山直哉 (木匠)

しましまポートレート

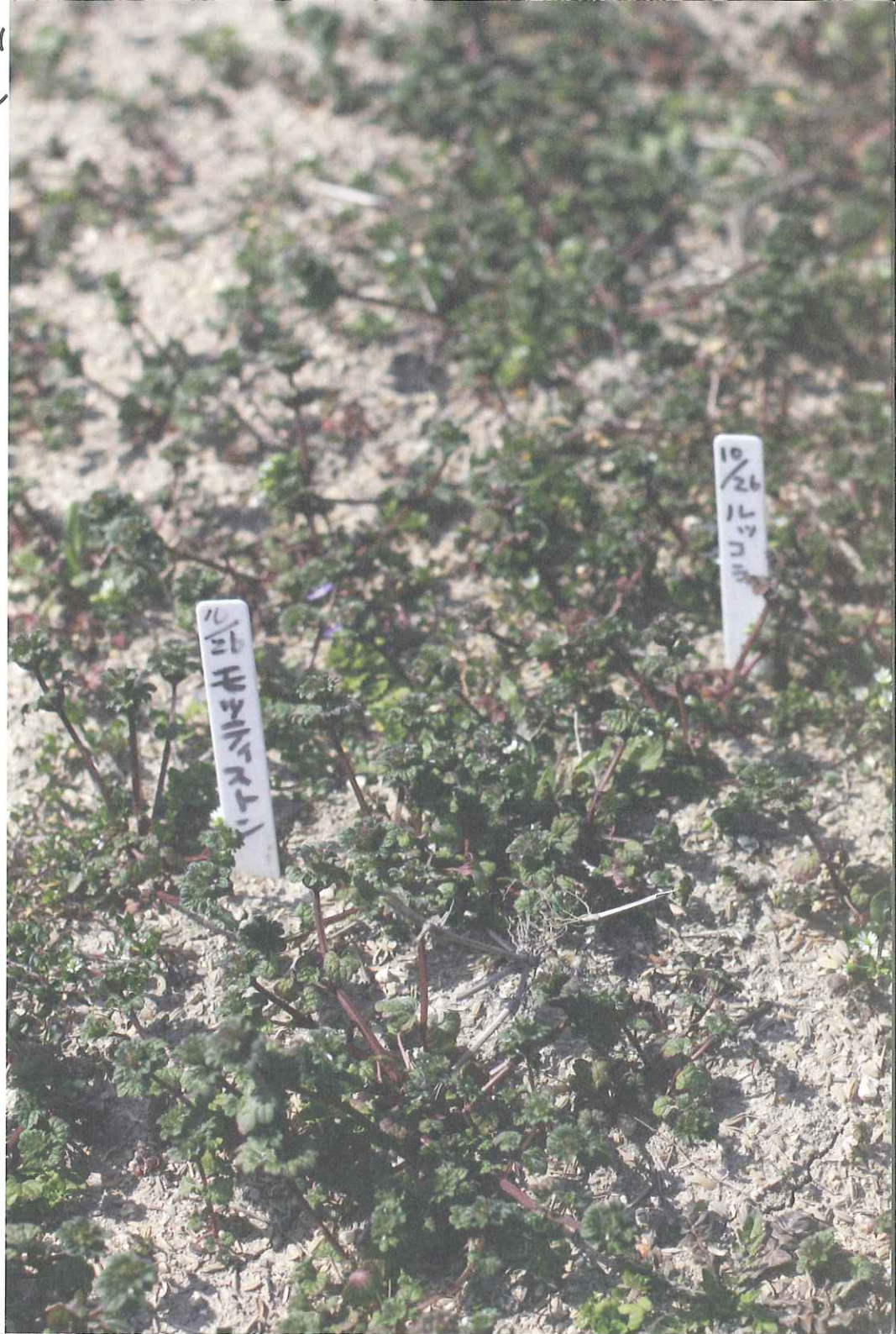
ピト Pito 1号

2011年9月31日発行 (不定期発行)

発行人 特定非営利活動法人読路島アートセンター 編集人・やまぐちくにこ

〒956-0025 兵庫県洲本市本町5丁目4番11号

無料





片山直哉

(木工家)

片山実里

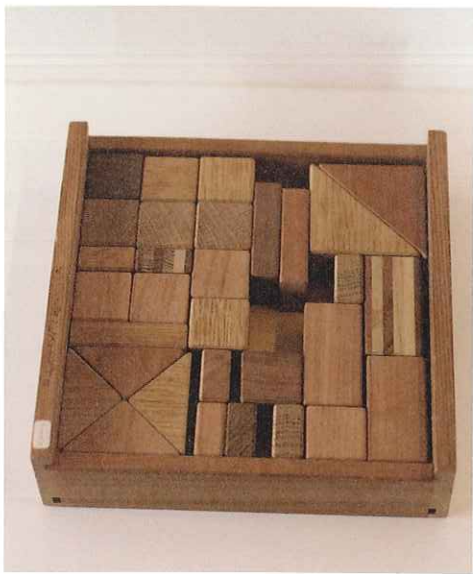
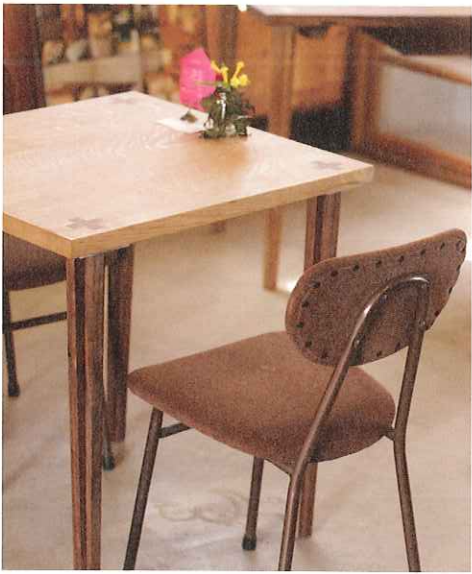
(フラワークリエイター)



ウフツと笑顔になるもの……。

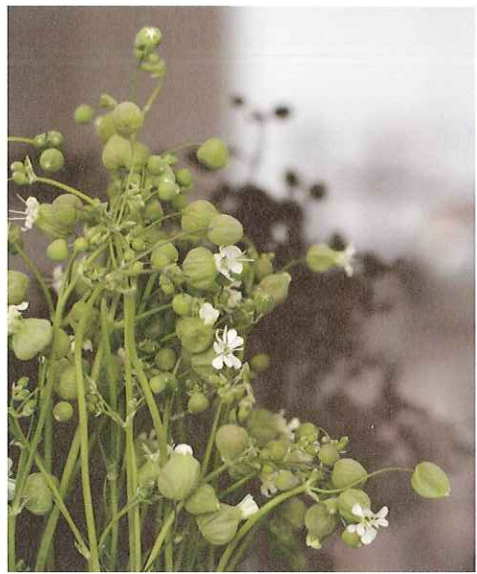
木工を営む片山直哉さんとフラワークリエイターの実里さん。
淡路島の西海岸「松帆」でお店兼作業場を構え、
ココロから楽しんでものづくりに励むふたり。
ふたりのものづくりの様子を訪れてみました。

木花



直哉さんの発想もユニークだ。家具づくりのテーマは……「ウフツと笑顔になるもの」。結婚披露宴で使う箸置きに依頼が入ったときに手掛けたのが、三角形の箸置きだ。「この箸置きを新郎新婦の名前が書かれた用紙の上で使うと、相々傘になるのですよ」。小学生の女の子の学習机を手掛けたときにも、ちょっとした仕掛けを加えている。「4月生まれの女の子と聞いていたので、引き出しの内側に桜の花びらを描いたのです。女の子が喜んでくれたときはうれしかったな」と、直哉さん。他にもいろいろ

「淡路島に住んでいるのだから、何かしら淡路島を意識していたいですね」。そんな片山夫妻の想いは、お店を見ても感じられる。2階建ての建物の1階は、直哉さんの木工作業場、2階では実里さんがフラワーアレンジメントを行う。ふたりのお店「suzuri」は、もともと倉庫だったものが改装された。「見た目はたまねぎ小屋風にイメージして、内装に使っているパネルには稲を圧縮したものを使っているのです」と、実里さんのユニークな発想が盛り込まれている。



いとアイデアは考えるみたのだが、実際に形にしようとすると挫折することの方が多みたいだ。

「でもお客様からの課題が難しいほどうれいですね」と、実里さんは言う。フラワーアレンジメントの依頼で、☑️をモチーフにして欲しいとか、ミッキーマウスをモチーフにして欲しいというのもあったそうだ。「オーダーを聞いたときははどうしようかと悩むけど、そんな時間が楽しい。ふたりとの会話からは、本当にものづくりが好きでたまらない、そんな気持ちが溢れ出ているエピソードばかりだ。

「これからは、もっと気軽にお客さんが立ち寄れるお店にしていきたいですね」と、実里さん。お店にはこれまで商品の展示がされていなかった。「オーダーの仕事が大半だったけど、これからは自分たちのオリジナル商品も提案していきたいですね」と、直哉さん。ふたりのお店「suzuri」の今後が楽しみになってきた。

バラバラ感のある淡路島がまとまれば良いと思いますね。個々の活動では一生懸命しているのですが、淡路島全体のコンセプトがないから、それぞれの活動がバラバラでまとまっていないのですよ。何でも良いから、「淡路島はコレで行こう」というコンセプトが必要だと思います。

ヒラマツグミ 平松さん

淡路島にいる一人ひとりが夢を持って、それぞれに頑張る。そうすれば自然と面白くなるし、楽しくなっていくように思いますね。淡路島に夢を持って移住してくる人や、移住したいと思っている人が多いのに、淡路島に住んでいる人は夢を持っていないように感じます。夢を持とう！

L'ISOLETTA 井壺さん

電車がいないから、車でないと島内の移動が不便。夜中はお酒を飲んだら代行でしか帰れないですね。コミュニティバスが夜中まで走ってくれるだけでも良いですね。金、土、日曜日だけでも。そうしたら町も活性化していくように思います。

tsuzuri 片山夫妻

淡路島は本当に恵まれていて、いっぱい良いものがあります。観光で考えるなら、いまある資源を手入れするだけでも良いと思いますね。きれいに手入れされているところに行けば、それだけでも気持ちが良いですから。ゴミを拾うことから始めてみるのも良いですね。

倭文土井農園 橘さん

淡路島に住んでいる人みんなが、淡路島を誇れるようになれば良いと思いますね。いまは淡路島の良さを理解されていないように感じます。「ここに行くの良いよ」とか、「ここがすごいよ」とか、島の魅力を熱く語る人が増えていけば、活性化するのじゃないかと思っています。

Char* 清岡夫妻

いま淡路島に必要なのは、遠慮を無くすことだと思いますね。自分たちのやりたいこと、個性を、周りの目を気にして抑えている人がいるように感じるのです。確かに地域の人の声は気になるんですが、個性まで無くしてしまわないようにしてほしいですね。

割烹はと 吉田さん